

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500081		
法人名	特定非営利活動法人 熊毛清風会		
事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	山口県周南市大字樋口262番地1		
自己評価作成日	平成27年 5月 21日	評価結果市町受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年 6月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○柔軟な姿勢と、笑顔をモットーに利用者さんの笑顔を引き出しています。荘内は圧迫感がない作り・環境となっており荘外は豊かな自然に囲まれ、窓からは鳥の囀りが聞こえてきます。目の前には小学校があり、元気な子供たちの声が聞こえてきます。近隣には幼稚園があり、園児との交流が多々あります。人生のよきパートナーとして認知症に対する専門的知識を得たスタッフが、おまちしています。

事業所の近くに小学校、幼稚園があり、子供の姿が見えたり声が聞こえてきて、運動会の見学、園児のダンス披露などで交流され、児童や園児たちと日頃から顔なじみになっています。利用者は地域の盆踊り大会や神社の春まつりのお接待にも招待され、運営推進会議のメンバーによる話し相手や地域のボランティア(フラダンス、日本舞踊、和太鼓、音楽療法など)の来訪、高校生(吹奏楽演奏)や中学生の体験学習などの訪問も定期的にあり、地域との交流を深めておられます。近隣の散歩や外気浴、季節の花見(梅、桜、紫陽花、紅葉等)、デイサービスの送迎時に一緒に出かけたり、利用者一人ひとりの希望や以前に仕事(大工さん)をした馴染みの場所に出かけられるなど外出の機会を多くつくり、利用者が気分転換やストレス発散ができるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に人と一緒に住み慣れた町で生活する」という理念の元、地域との関係が深まるよう取り組んでいる。毎月10日の施設内研修にて地域密着型サービスにおけるサービスの質の向上と職員全員での意識の共有に取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、毎日実施している内部研修の中で理念に基づいて話し合いを行い、理念を共有して実践につなげている。現在、新しい理念を作成中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園、小学校、運動会見学、散歩時、挨拶などで利用者の顔を覚えてもらっている。運営推進会議で近隣の方が役員となり相談員も近隣の方で地域とのかかわりが深まるように努め馴染み深い関係づくりをしている。近隣の方で毎週来られる方もいる。	利用者は地区の春まつりや盆踊りに参加し、職員は自治会の集会に参加している。幼稚園や小学校の運動会に参加して、児童や園児、地域の人と交流している。ボランティア（フラダンス、日本舞踊、和太鼓、音楽療法等）や高校生（吹奏楽演奏）、介護相談員などの来訪がある他、中学生の体験学習を受け入れている。運営推進会議のメンバーが定期的に来訪し利用者と話をしたり、地域の情報を聞くなど、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントの際には近隣の方にも声をかけ事業所に気楽に来荘してもらっている。又、自治会に何度か出向きグループホームに対する理解を深めてもらえるよう努力している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に施設内研修にて外部評価の意義を説明し自己評価は正職員対象に実施した。	施設内研修で施設長は外部評価の意義について説明している。正職員が自己評価を行い、管理者がまとめて、施設内研修で報告し、意見を聞いて作成している。前回の外部評価結果について話し合い、事故防止の取り組みや災害対策など目標達成計画を作成し改善に向けて取り組んでいる。	・全職員による自己評価の取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(第2金曜日)運営推進会議にて利用者の状況、ヒヤリハット事故、行事の実施報告、評価の項目に沿った内容話し合っている。朝礼・施設内研修にてそれらを盛込んだ内容としている。	会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の現状報告や活動報告、ヒヤリハットや事故報告、災害対策の現状、外部評価への取り組み状況等について説明し、意見交換している。参加者から、「おかでら喫茶」や事業所の新しいパンフレットの作成について意見があり、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターの方や、疑問に思った事は市の職員に確認を取り運営している。特に運営推進会議はよりよい場とし協力関係構築に努めている。	市担当者とは、運営推進会議時に話し合ったり、施設長が直接出向いて事業所の運営について相談して助言を得たり、電話で情報交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、地域での困難事例などを相談したり情報交換をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、無断外出の可能性がある人に対する支援の見直し、あり方を施設内研修にて未然に話し合っ防止に努めている。常日頃の朝礼にて報告・相談・実施・結果まで繋げている。	身体拘束マニュアルは年1回確認している。職員に対しては、「体罰、虐待、人権について」と題したアンケート調査を行い、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックは、職員同士で注意を払うようにしている。ドラッグロックは、主治医や看護師と相談し気をつけている。日中玄関は施錠しておらず、外出したい利用者とは一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように職員さんの「心のゆとり」を持って働いて楽しい職場づくり、職員間の声かけ協力体制を常日頃から心がけるようにしている。又、認知症に対する知識も高めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプラン達成する為 個々の支援統一と自立度等を職員さんに理解して頂いたうえで支援に取り組んで頂くようにしている。現在、成年後見においては1名利用されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	この度、介護給付費改正にともない利用料が変更になる為、同意を得た。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に基本利用料現金払いとし、ご家族に入居者さんの報告や相談・苦情を言える機会を多く持っている。意見箱の設置。運営推進会議を利用し外部の方からの案も反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に札名している。利用料納入時、面会時、電話、運営推進会議時、行事参加時などで、家族から意見を聞いている。介護相談員が月1回来訪し、利用者の相談を受けている。運営に反映させるまでの意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月10日の施設内研修にて皆さんで自由に発言できる場を設けて皆さんで考え反映している。	毎月の施設内研修に理事長、施設長、管理者の参加を得て、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。職員用アンケート箱を設置している。業務日誌の改善など職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ管理者も現場に出て状況把握に努めている。地域貢献、ボランティア活動、子育て等推進している為、希望休を優先している。又、手当での充実も行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月10日の施設内研修。施設全体での現状と能力に見合った外部研修に参加している。	外部研修の情報を職員に伝え、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をして、職員間で共有している。内部研修は、毎月1回施設長が講師となって、「認知症ケアの技法、良いコミュニケーションとは、グループホームの動向、地域包括ケアシステムとは」等の内容で実施している。働きながら介護技術や知識を身につけるように支援している。	・計画的な内部研修の取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長、管理者が他施設でのネットワーク作り、勉強会等を通じサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでに管理者が利用者さんと面談し要望・不安を事前に取り除いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて不安や要望等も聞き契約の段階でしっかりと信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネージャーと連携をとり速やかに対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	機能訓練を兼ね、出来る事は行って頂く支援を行っている。家事、洗濯量、料理の下ごしらえ等、協働して出来るように取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、基本利用料は現金払いのため、入居者の状態報告、又はご家族へのお願い等が密に行えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域へのイベント参加、特にイベント(外出支援・ボランティアさん)の機会を多くしている。	親戚の人や友人、近所の人の来訪がある他、電話や年賀状での交流を支援している。家族の協力を得て、外出(外食、買物)、帰宅や墓参り、葬式や法事への出席など、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中なるべくフロアーにて過ごしていただけるよう声かけや様々な取り組み(パズル・貼り絵等)で雰囲気づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎月、基本利用料は現金払いのため面会して頂けている。入居者の状態報告、又はご家族へのお願い・ご家族からの相談等密に行えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて入居者さんの意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。	入居時にセンター方式を活用して、家族からこれまでの生活歴など聞き取っている。日常の関わりの中での行動や言葉を個人日誌や特記事項に記録し、思いや意向の把握に努めている。レクリエーション時や入浴中に関わる時に、利用者の思いや意向を聞いている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さんに少しでも早く新しい環境に慣れていただく為と事例が困難になって対応する事のないように入居の際、ご家族から得た情報を何度も読み返し、職員間で情報の共有を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状維持が保たれているかどうか等、個人記録に記入し低下が見られたら引き継ぎ帳を通じ朝礼時や施設内研修時にて把握・検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人さん、御家族の要望を反映した介護計画と担当職員さんの意向を踏まえた機能訓練計画とでサービスを提供している。毎月の施設内研修にてモニタリングを行っている。	毎月1回ケアカンファレンスを行い、本人の思いや家族の意向、受診時の主治医の意見、職員の意見を等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた時はその都度見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人が個人記録に細かく記入し情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の思いや意向で、その日の朝礼時に決定・変更・実行したりしている。小規模だからこそ行える「柔軟な姿勢」＝施設の存続だと考えている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法、相談員、日本舞踊、小学生、幼稚園児、美容師(2ヶ月に1回)マッサージ等、地域の人と触れ合う機会を設けている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の説明と共に日々の健康相談、受診、緊急時の往診、入院時の紹介状等すみやかに出来るよう日常連携している。	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、他科受診は家族の協力を得て、職員が受診の支援をしている。緊急時には協力医療機関に連絡し、夜間は管理者が対応している。受診時には「介護支援経過表」を持参し、医師に情報提供をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼時、身体異状時等、常に看護師の指示を受けるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のケースワーカーさんと連絡を密に行い、面会しては状態、状況把握に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望があれば看取りまで行っており、家族との連絡体制や医療連携等、検討や準備を行い安らかに旅立ちご家族が悔いを残されないように出来るだけ付き添って頂いている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、主治医、職員等で話し合い、方針を全員で共有して支援に努めている。看取りに対する支援もあり、管理者(看護師)の指示により対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	普通救命講習受講に参加している。申し送り帳を活用し未然に事故防止に努めている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に、事例発生の都度記録し、職印には翌日の申し送り時に注意を呼びかけ、申し送りノートに記入して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。年1回消防署によるAED講習への参加や看護師を講師として転倒、転落(打撲への対処法)等の訓練を実施しており、緊急時には看護師の指示により対応している。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の際には、地域との協力は全面的にしてくださるとの事。年2回の避難訓練、毎月の施設内研修において想定・対策・対応等話し合っている。職員さんも避難経路の確保に毎日気を配っている。	年2回、夜間想定を含む避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施している。毎月、職員間の緊急連絡網通報確認をしている。運営推進会議で、災害対策について関係者と意見交換している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんは人生の先輩として接している。言動ともども、肉親又は自分に置き換えて介護するようにしている。	「人権について」のアンケート実施や朝礼時の施設長からの訓示を通して、職員は理解し、利用者の自尊心を傷つけない言葉かけや一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。入浴時や排泄時など不適切な対応等がないかを確認している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の心のゆとりが他の人のペースに合わせる事が出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を伝えている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気をつけ褒める声かけを行っている。衛星、健康、身だしなみは毎日、目配り、気配りしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時にテーブルに花を飾り、イベントや毎週金曜日のカレー等手伝って頂いている。食事の準備・片付け、下膳できる人は自分で行って頂くよう毎日の日課としている。	昼食と夕食の副菜は配食を利用し、朝食と三度の主食と汁物は事業所で調理している。利用者は下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、下膳、台拭きなどできることを職員と一緒にやっている。毎週金曜日は、「カレーの日」で一緒に調理し、利用者と職員は同じテーブルで会話をしながら同じ食事を楽しんでいる。おはぎやカップケーキをつくったり、外出時は外食を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人日誌に細かく記録している。状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き残量を介助している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の30分後、利用者さんに声をかけ働きかけをし、出来ない所はしっかりと支援し清潔を保持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し排泄パターンを知り、声かけ・誘導・個々にあったパット等を話し合い柔軟に対応している。	排泄表を活用して、排泄パターンを把握し、さりげない言葉かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援をしている。排泄の自立をしている利用者もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動かない生活ではなく、一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防している。午前・午後とお茶・紅茶・コーヒーと選んで頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	行事などの都合もあるが、基本は午前中に入浴して頂き入浴日も決まっている。強要はせず他の方と変更するなど柔軟に行っている。足浴も行っている。	入浴は、10時30分から11時30分頃まで日曜日以外の毎日可能で、利用者の体調や希望に合わせて支援している。日曜日は足浴の支援をしている。利用者の状態に応じて清拭、シャワー浴、リフト浴など支援している。入浴をしたくない利用者には時間をずらしたり、職員を交代したり、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度な機能訓練を行って頂いている。天気の良い日は布団を干し少しでも快眠できるように工夫している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容が把握できるようファイルに保管している。個人記録に内服欄を設け、飲み忘れ・服薬支援の統一を図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の外出支援の実施、趣味の畑仕事・盆栽・料理の下ごしらえの参加・ボランティア等を行っている。外出支援では、外食にて入居者さまのリクエストにそえるように楽しんでもらっている。	テレビやDVD視聴、新聞や週刊誌を読む、ぬり絵、ちぎり絵、カルタ、トランプ、パズル、手づくりゴルフ、カラオケ、棒体操、シャッキリ体操、盆栽の手入れ、水やり、洗濯物たたみ、下ごしらえ、お盆拭き、下膳、台拭きなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各入居者様のレベルに添った外出支援・散歩等、柔軟に取り組めるよう努めている。	小学校の周りを散歩したり、春祭りへの参加、普賢祭り、季節の花見(冠山の梅、米泉湖の桜、漢陽寺の紫陽花、吉香公園の紅葉など)、ドライブ(デイサービスの送迎時に便乗)、外食、買い物など外出の機会を多くつくり気分転換を図っている。利用者の馴染みの場所のリクエストに応じて東善寺、果子の木、米泉湖、下松スポーツ公園などに出かけられるように支援している。個別外出にも対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出られた時は、利用者様の欲しい物が買えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方もいらっしゃる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には季節の花を飾り季節感を採り入れてたり、トイレ内に消臭剤、暑くなれば網戸にし風通しをよくしている。	リビングの前にウッドテラスがあり、野鳥の餌箱や巣箱、数々の盆栽が置いてある1号館と、天井に大きな木材の梁が架かり広々とした2号館は、広い廊下を通してつながり、利用者が自由に行き来できるようになっている。広い廊下はリビングとしても活用し、家族の来訪時に談笑できる場でもあり、レクリエーションを行う場所としての空間でもある。各ユニットには、テレビやテーブル、ソファも配置しており、季節の花を飾って居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間(スペース)が広くゆっくりと寛げる空間作りをしている。又、共同作業が出来るようにも心がけている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある写真や物、寝具などの思い出のある物。あるいは使い慣れた物を持参して頂いている。衣装ケースには種類別の名前を貼り使用時にわかるようにと工夫している。	ベット、寝具、衣装ケース、テーブル、椅子、テレビ、鏡台、衣類、時計、趣味の道具など利用者の使い慣れた物を持ち込んでいる。壁のコルクボードに思い出の家族写真や作品など飾って居心地良く過ごせるような居室づくりをしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように名札を取り付けている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム おかでら荘

作成日: 平成 27年 10月 16日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	○評価の意義の理解と活用 全職員による自己評価の取り組み	自己評価(56項目)の意識づけ	パートさんは様々な事情があるため、自己評価は常勤職員対象としていたが、内部研修にて全職員に自己評価表を配布して、56項目は当法人において働くうえで意識して働かなければならない事項とした。今後新人さんも理念と56項目は初めの段階で熟読したうえで勤務して頂く事とする。	1年
2	14	○職員を育てる取り組み 計画的な内部研修の取り組み	計画的に来年何を行うかを模索する	職員を育てる取り組みとして、施設内研修にて社会情勢・動向と当法人で現状に求められる事を分析しながら取り組んでいた。計画的に何を年間で取り組むかは、年末に職員全員に決めていただき来年取り組む。	1年
3	35	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	計画的に来年何を行うかを模索する	職員を育てる取り組みとして、施設内研修にて社会情勢・動向と当法人で現状に求められる事を分析しながら取り組んでいた。計画的に何を年間で取り組むかは、年末に職員全員に決めていただき来年取り組む。	1年
4	36	○災害対策 地域との協力体制の構築	当法人・職員が知己福祉としての在り方を見直し意識する	地域の方が認知症の方への関心が増えてくる中、地域の方の受け入れ態勢の見直し、第三者的な目線での振り返りを行い見直す。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。